

第2回生駒市総合計画審議会第二部会

第2回 生駒市総合計画審議会第二部会

1 日 時 平成27年7月31日（金）9：30～

2 場 所 生駒市役所 4階 大会議室

3 出席者

（委員） 久委員、大原委員、楠下委員、中山委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、小澤企画政策課長補佐、

岡村企画政策課企画係長 松尾企画政策課係員

4 欠席者 楠下委員

5 議事内容

①No. 343

【久部会長】 行政の評価がC、審議会は全員Bということでございますので、審議会の評価は進捗度Bでよろしいですか。

（異議なし）

【久部会長】 では、Bといたします。何かこの項目で気になる点、あるいは今後に向けてのコメント等がございましたらよろしくお願ひしたいと思います。

ところで、不法投棄が増えていることもごみ有料化と関わりがあるのですか。せっかく順調に減少してきていたのに、今年度から不法投棄も空き地の管理も数値が跳ね上がっていますので、気になりました。

【事務局】 ごみ有料化を不法投棄増加の要因であるとするのは難しいところであると思います。進捗度一覧表にご意見としていただいていますように、多数の方はご理解いただいて不法投棄をしないよう努めてくださっているのですが、幾ら啓発をしても、犯罪だと分かっている意図的に不法投棄を行う方も一部いますので。

【中山委員】 不法投棄を行うのは、業者の方などが多いのですか。

【事務局】 そういったケースも多いです。大きなトラックで来て、山や谷のところに建築資材等を捨てていくこともあります。誰が捨てたのか分かれば告発できますが、なかなか難しいですね。

【中山委員】 不法投棄を見て通報しても、やはり現場を押さえないと検挙にはつながらないのでしょうか。

【事務局】 誰が投棄したのか分かれば可能です。不法投棄された物で誰が投棄したか分かる場合もありますが、大抵は特定ができるような捨てられ方をしていません。徹底的な犯人捜しを行うのは、難しいところです。

その対策として、不法投棄の多そうな場所への監視カメラを今年度設置することを検討しています。ただ、それは犯罪の摘発だけでなく、抑止効果としての設置でもあります。

【大原委員】 指標数値は悪化していますが、大多数の市民は役割分担を理解しています。不法投棄を行ったりするのは一部の人だけですし、監視カメラを設置したり、抑止力を設けようとしたり様々な取組をされています。市民全体や行政も一生懸命それぞれ取組を行っていると思いましたが、私は進捗度Bとしました。

【久部会長】 各項目は概ね順調ですが、指標が2つとも悪化していますので、その点は一層留意しつつ今年も頑張ってください。

②No. 344 上水道

【久部会長】 行政評価がBで、審議会委員もともにBということですので、審議会評価は進捗度Bでよろしいでしょうか。

(異議なし)

【中山委員】 夏場の水道水からは他の季節よりも強く薬品のようなにおいがする気がします。夏の間は消毒液の量が増えるのですか。

【事務局】 殺菌ために塩素を入れていますが、そのまま飲んでいただいても支障のない量であると思います。季節によって塩素量の増減があるかどうか事務局では把握できておりませんが、夏場は水の温度が高めになる可能性があるのも、もしかしたら塩素の量を増やしているのかもしれませんが。

【久部会長】 進行状況を見ますと、この分野はかなり頑張っており取り組んでいただいているのではないかと思います。水道の有効率もかなり急激に上昇していますし、節水の効果かどうかは不明ですが配水量も減っています。ですので、進捗度はAに近いBであるように感じます。

【事務局】 市民の皆さんの傾向としては、こまめに節水を行う傾向にあるようです。節水型の洗濯機やトイレも販売されていますし、節水すれば水道料金が減るといった実感がありますので、節水されている方が多いようです。生駒の場合、大体3分の2は県水を購入しているのですが、県水の購入量を減らしつつさまざまな取組が行われています。

【久部会長】 県水の使用量・購入量を減らしたから自己水の割合が増えている、こういう理解でよろしいですか。

【事務局】 はい。

【中山委員】 生駒の井戸水事情はどうなっているのでしょうか。井戸水の水量は豊富なのですか。

【事務局】 いいえ、それほど水量はありません。生駒市民を全部賄うのは無理であると思われます。今の自己水の比率が38%ですから、比率としてはその程度であると推察されます。

【中山委員】 最近は昔のように大地へ浸透していくような雨の降り方ではなく、アスファルトなどのかたい地面も増えましたし、降ってもただ流れていくような雨が多いですね。雨が降っても、井戸水にはあまり効果みられていないのでしょうか。

【事務局】 生駒には生駒山や矢田丘陵がありますので、その周辺の雨水が地下に浸透しているとは思いますが、町なかの水が地下まで浸透するというのは少ないかもしれません。

【久部会長】 奈良県付近の都道府県ですと、実は、奈良県が最も水道水の確保が厳しいのです。京都や大阪は淀川、琵琶湖から水源を得ることができますし、和歌山は紀の川があります。ですが、奈良には大きな河川がありません。なので、今でも和歌山の紀の川から水を相当量送ってもらっているそうです。

【中山委員】 でしたら、市民ももっと節水を心がけないといけませんね。

【久部会長】 そうですね。

③No. 351 自然的資源

【久部会長】 進捗度は行政がB、それから、審議会も全員Bですので、審議会の進捗

度はBという判断でよろしいでしょうか。

(異議なし)

【久部会長】 この分野は私も一緒に取組をさせていただいている分野なのですが、市民の森が1つ増えるなど、色々と行政も頑張ってくださいって緑を守る方向に向かっていると思います。

④No.352 公園・緑化

【久部会長】 行政の進捗度がB、それから、審議会委員も全員Bということですので、審議会の進捗度はBということでもよろしいでしょうか。

(異議なし)

【久部会長】 何かコメント等ございますでしょうか。

(各委員「特になし」と返答あり)

【久部会長】 ここも私がお手伝いしている分野です。地域の方が「公園の再整備を行いたい」と手を挙げて、公園のリニューアルデザインを地域の方と市役所とが一緒に描き、協働でより良い公園にリニューアルを行うことができる「コミュニティパーク事業」という制度があります。去年、コミュニティパーク事業の実施を希望する声が2件挙がりました。しかし、事業箇所を選定する審査の結果、1件お断りする結果となってしまいました。また、財政の問題もあり、コミュニティパーク事業には2年に一度しか応募することができないのです。せっかく市民の方がやる気になっているのに、1回お断りすると次に応募できるのは2年後になってしまいます。もっと応援してさしあげてほしいです。

【事務局】 地域住民のみなさんで集まって公園がきれいになるというだけでなく、コミュニティの輪が広がる等ほかの様々な効果もありますので、久部局長がおっしゃいましたように、応募が多ければ、もちろんそれに対応した形を検討していかなければならないと考えています。

【大原委員】 山麓公園や四季の森のように、公園の規模がある程度大きくなれば、市や指定管理が整備や管理を行いますよね。普通の公園ですと、自治会や周囲の利用者で草刈などの整備を行うケースが多いと思います。地域の公園なのに、「これからの草刈などは自分たちでやらねばいけないのか？ それ

は行政の仕事だからやってくれ」と無責任に言って終わらせてしまうような問題も、地域の公園にはあるのではないのでしょうか。

【久部会長】 今まで幾つかの自治会が既にコミュニティパーク事業に応募してくださって、自分たちで創意工夫を行い、その後の管理も自分たちでやっていらっしゃるところが増えてきています。一番の典型例は、コミュニティパーク事業の第1号である光陽台の中央公園です。中央公園はいつも花が大変きれいに咲いているのですが、やはり「自分たちの思いがデザインになっている」ということが地域の人たちの気持ちを高めているのでしょうか。

しかし、先ほど大原委員がおっしゃったような公園もありました。ある地域の自治会が管理委託を市に返上したのです。「公園の整備や管理は行政がやってくれたらいい」という雰囲気もありました。ですが、「本当にそれでいいのか」、「年に3回くらい市職員に草刈りに来てもらうだけでいいのだろうか」という話が地域から盛り上がってきて、「自分たちでしようよ」という話になって、コミュニティパーク事業を利用してくださり、リニューアル行うことになりました。この事業は1カ所の公園しかリニューアルを行えないのですが、コミュニティパーク事業を契機に、「地域にある他の公園も、もう一回自分たちで管理しようよ」という雰囲気になりつつありますので、そういう意味ではよい方向に向かうきっかけになったのかなと思います。

【中山委員】 もともと公園の利用者が多かったのでしょうか。

【久部会長】 いいえ、逆でした。市役所だけで公園整備を賄ってしまいますと、あちこちの公園を整備しないといけないので一箇所につき年に3回くらいしか手入れを行うことができません。どうしても夏場にまた草が生えてきたりしますが、とても間に合わなくなってしまいます。ですので、管理が行き届かず草が生え放題になってしまい、誰も近づかなくなってしまう。そういう悪循環が起こっていました。この連鎖を自分たち地域住民の手で何とかしようという話になったのです。

【中山委員】 整備をすることによって、利用者も増えていくのですね。

【久部会長】 はい。それから、高齢者の方にとっても更に使い勝手のいい公園にしたいというのも、コミュニティパーク事業の1つのきっかけでした。ニュー

タウンの中の公園は子どもたちが遊ぶために造られたにもかかわらず、だんだんと高齢化社会になってくると、従来のニーズに合わなくなってきました。高齢者も使いやすい公園に変えていくために遊具はどのようにするかについて、高齢者だけでなく子育て世代の人たちも入っていただいて、もう少し遊具の数を減らすといいのではないかといった意見や、子どもたちも高齢者も使えるような遊具に切りかえていこうという意見など、地域の人たちみんなで色々な話し合いをする制度なのです。

【中山委員】 本日の審議会に参加するまで、公園は子どもたちだけが利用するものだと思っていましたが、そうではないのですね。中国では高齢者の方が朝早くに公園に集まって体操を行う地域があるそうですが、高齢者の方がそんな風を集まれたり、高齢者のための健康維持遊具のようなものがあったり、気軽かつ積極的に利用できる公園になるとよいですね。

【大原委員】 様々な地域でコミュニティパーク事業が行われているのです。しかし、例えば「光陽台の中央公園」と言われても、付近の住民以外は「光陽台」という地域が一体どこにあるのか分からないのではないのでしょうか。「光陽台でこんなにすばらしい事業が行われていますよ」と言われても、場所を知らなければ、きっと興味や関心が湧かないでしょう。ですので、自治会等で企画し、コミュニティパーク事業に取り組んでいる公園の見学ツアーを行ったりするとよいかもしれません。

【久部会長】 「ふろーらむ」を御存じない方もまだまだ多くいらっしゃいます。「まちなかふろーらむ」といって、ふろーらむ事業でこの花壇は管理されていますというような立て看板を立てるようにはしているのですが、十分に認知されていない状態です。

花好きの人だけではなく、もっと様々な人たちに知っていただけるよう、周知を徹底し、PR活動を続けてください。

【大原委員】 近所の自治会の公園ですと徒歩で行くことができますが、自宅等からある程度距離のある公園ですと、車で行くことが多いと思います。先ほど遊具で健康維持といった話もありましたが、公園に駐車場整備というのはどうですか。

【事務局】 公園には、街区公園、総合公園、近隣公園などの種類があります。住民

の方々が利用される近所の公園というのが二、三千平米の近隣公園に分類されまして、このような公園でコミュニティパーク事業を実施しています。しかし、山麓公園などの大きな公園になりますと、やはり車で行って集うという形になりますので駐車場を設けております。駐車場整備の如何は、その公園自体の規模、あるいは目的や用途によるところが大きくなっています。

【久部会長】 公園の種類が都市公園法でちゃんと決まっていますし、近隣地域の方の利用を想定している場合はほとんど駐車場を設けないという話になりますよね。だから、市域全体で使っていただく場合には駐車場を整備するということですかね。

【事務局】 竹林公園、ふろ一らむ、山麓公園のようなところには、やはり駐車場が設けられています。

【久部会長】 検証シートに「ふろ一らむ喫茶コーナー設置」とあるのですが、この3月からふろ一らむの中でお茶が飲めるように、市民ボランティアさんがサービスして下さるようになりました。料金は100円ほどでしたでしょうか。みどり景観課と打ち合わせをして、やっております。花好きの人はふろ一らむで色々と活動をされるのですが、それ以外の人は、用事がなかったらなかなかふろ一らむに立ち寄ることもございませんので。「活動しなくても大丈夫、お茶だけでも飲みに行けますよ」というのを、PRさせていただきたいと思います。

【中山委員】 今までふろ一らむを訪問したことがなかったのですが、行かせていただきます。

【大原委員】 もう1つ、久部会長が頑張ってくださっている分野ですので一番分かっておられるとは思いますが、ふろ一らむの規模はあの大きさでよいのでしょうか。少し小さいような気がします。

【久部会長】 ふろ一らむが拠点となって市域全体の花を育てていくのですが、適切な規模であると思います。ふろ一らむを花でいっぱいにするのではなく、ここでいろいろ講習を受けてもらったり苗を育ててもらったりし、それを随所に植えて広げていく等をし、「市域全体の花を育てていく」という施設ですから。

【大原委員】 もっと多くの方に利用してもらいましょう。

⑤No. 511 学研都市

【久部会長】 進捗度は行政がCということですが、委員はDが3人、Eが1人となっておりますが、いかがでしょうか。

【中山委員】 学研都市の奥のほうに、起業の誘致を行っている工区がありますが、今後も会社が益々増えていくのでしょうか。

【事務局】 現在、第1工区と第2工区が問題になっています。以前は研究所に限定して誘致を行っていたのですが、研究機能も持った製造所も建設可能にするなど、利用しやすいような形に変更しつつ企業の誘致を行っているのですが、第1工区は区画があと3つ空いている状況です。

【久部会長】 市民との交流が進んでないので、NECが撤退するときも、撤退しないでほしいという声あまりあがらなかったのではないかと思います。

【大原委員】 総合計画に学研都市を記載する必要があるのか、少々疑問に感じます。進むべき方向が見えないから、取組も進まないのではないかというのが私の意見です。

【久部会長】 市民の皆さんと交流しにくい立地条件だということもあるとは思いますが、「市民ぐるみで学研都市を応援しよう」という意識づけのためにこの項目が総合計画中にあると考えたときに、市民側や事業者ともタイアップすべき部分もあると思います。そこがなかなか目に見えた形で動いていないので、いつもシビアな評価をせざるを得ないのだと思います。

【大原委員】 中山委員は学研都市をどう捉えていますか。

【中山委員】 私の子どもが小さかった頃は、映像で見る水族館や、学研都市でのイベントにも行きました。しかし、映像水族館等の施設が閉鎖したり、郵便局や書店もなくなってしまったりと、それからはあまり訪れていません。子どもが独立して、イベント等に行かない年代になったので余計に足が遠のいて行かなくなりました。

【事務局】 先端大の北側にあるサイエンスプラザの建物内に郵便局や書店がありましたが、殆どが撤退しました。イベント時には日曜日にもサイエンスプラザを開館することもあります。先端大と先端大の支援財団ということで、

一般のお客さんに日曜日に来ていただいて見ていただくという趣旨の施設ではないので日曜日には開館していません。ですので、部会長がおっしゃっていただいている、市民が応援しようというスタンスになるような施設体になっておらず、その方向性が非常に難しい状態になっております。知事としては、学研都市の空き地部分について、今ある施設で何らかの取組を行うというよりは、企業誘致を行う方向のようです。

【久部会長】 先ほど大原委員もおっしゃっていただいたように、この分野をいつまで総合計画に載せておくのか。第2工区も中途半端な状態になってしまっていると感じますので、載せておくなら載せておくで、やはりしっかり取組んでいただくべきだと思います。

市は学研都市を何とかしたいと思っても、市民は冷めた目で見ている状態にですよね。ですので、やはりCSR活動が必要となるでしょう。企業の社会貢献活動を実らせていく時代でもありますし、学研都市に立地している限りは生駒市や生駒市民に何らかの貢献をお願いしますというように感じて押していくということも必要だと思います。

加えて、今、大学や大学院も評価を受けないといけない時代です。地域連携という項目もあります。そこをくすぐっていくということも1つかなと思います。

【事務局】 小中学校とかの子どもたちや、あるいはオープンキャンパス、サイエンスフェスティバルなど、先端大にも様々なご協力はいただいているのですが、市民の方々にとってみれば少しハードルが高く感じてしまうのかもしれない。

【久部会長】 大原委員がEというかなり峻厳な評価をしていらっしゃいます。審議会としての進捗度は、現状を受けて、大原委員のEと他の委員Cの間であるDとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

⑥No.521 農業

【久部会長】 進捗度につきましては、行政がB、審議会は全員Bです。審議会の評価としては、進捗度Bということではよろしいでしょうか。

(異議なし)

【久部会長】 この分野は様々な項目が増えておりますが、新たな展開で効果が生じたのでしょうか。

【事務局】 県の支援等もあり、青年新規就農が増加してきました。また、遊休農地対策については、地道に取り組んでいるとは思いますが。

【久部会長】 特に今回は、今までに比べて遊休地活用のメニューが一段と増えていきます。成果が出たときに、何が効果的なのかということを経験しておくことが非常に重要であると思えますし、これにより有効方策が見えてくるのではないのでしょうか。

【事務局】 遊休農地については、「行政の4年間の主な取組」①1に記載されている、「新規就農者3人、2.2ヘクタールの遊休農地を紹介した」ことの作用が大きかったのではないかと思います。

【久部会長】 新規就農者が突然あらわれたのか、市役所が何かやってくださったから新規就農者3人が生まれたのか、理由が知りたいです。

今までも同じような仕組みをとっていたにもかかわらず、今回、新規就農者3名があらわれて、幸いなことに、遊休農地の活用面積が増えてきている。その事実は分かるのですが、何か一昨年と比べて去年は何か新しい取り組みを始めたのかどうかや、少しPRのやり方を変えたのかということ等を知ることができればと思います。

【事務局】 奈良県全体で新規就農者の募集を行い、その方々が県内のどこに行かれるかということで、生駒を選んでいただきました。生駒は比較的市場に近いので、作物を売ることができる場所が近いという利点に着目していただいたのではないかと思います。

ただ、おっしゃるように、平成26年度の成果が向上した具体的な詳細は少し把握できておりません。

【久部会長】 それをもう少し分析していくと有効な施策が見えてくると思います。つまり、今まで市で新規就農者を募集していてもなかなか来なかったが、県で募集したら希望者が集まった。では、その違いは何なのか、ということの分析が有効だと思います。

例えば、県の方がスケールメリットがあったのか、あるいは県のPRの

仕方が今までの市のPRの仕方と違ったのか等の理由が見えてくると、どういふ取組が有効か分かってくるのではないのでしょうか。分析の結果を我々も共有しておきたいな、と思います。

【事務局】 生駒市では新規就農者の募集のみを行っているのですが、奈良県では、募集を行うだけでなく、今まで農業に携わったことのない方も多いので教育にも力を入れています。

【久部会長】 そこは、やはりJAとのタイアップではないでしょうか。

具体的に言うと、岸和田は十数年前から営農塾というのをやっておられます。新規就農の方はもちろん、一番のターゲットは55歳ぐらいの農家の後継者。今まであまり本格的に農業に従事していなかった方々の教育を岸和田ではJAが行ってくれていますね。退職後に本格的に農業に従事するような方もいますから、ターゲットが非常に分かりやすいのですね。

ですので、奈良県が行っている就農教育がうまく効果を発揮しているのであれば、生駒としても新規就農者数増加効果が出ているのですから、増えている理由をちゃんと知っておきたいと思えますし、担当課にもきちんと認識しておいていただきたいと思えます。

この項目に限らず、担当課でも効果がないものはなぜ効果がないのか、逆に、効果があるものはなぜ効果が出てきたのかということを経細に分析していけば、次の手を考えられるのではないのでしょうか。

【大原委員】 親子ふれあい農業体験事業などの、市民が親しむことのできる目に見えるような施策は一生懸命取組んで下さっているなと思えます。しかし、その取組に参加することによって農業が1つの商いになるのかというと、それは無理だろうと思っています。

【事務局】 各地域で農業自体のあり方が異なっていますが、生駒の特色としては、専業農家が少なく兼業農家が多くなっています。また、都市に近く、山もあるのでまとまった農地が少なくなっており、住民の方が農業に親しみにくい状況であるということ踏まえ、農業に親しむようなイベントや、市民農園などの事業を行い、市民が農業に触れ合う機会を設けつつ農業者を育成するという二面性を持たせながら取組んでいるという部分が強くなっています。

【久部会長】 商業の活性化と農業の活性化は一緒だと私は感じています。創意工夫ができる人がぐいぐい引っ張っていくと、効果が出てくるのではないかなと。

例えば、自分の作付面積が少ないという話があるのですが、周囲の耕作意欲のない農家の土地を借り上げ、作付面積を広くして一定の面積で耕作を行っているという熱心な農家の方も出始めています。商業において、頑張っている人たちがそれなりのポジションを持ち始めてくると商店街も元気になってきますが、それと農業も一緒だと思うのです。

参考になるかどうかは分かりませんが、少し情報提供をしたいと思います。富田林の南の方に嬉という地域があるのですが、嬉には「嬉さん」というブランド米があります。「きらめきファクトリー」という観光案内所が新しくできたのですが、そこに富田林産のものを販売しているコーナーがあり、そこでも「嬉さん」が販売されています。私がいいアイデアだと感じたのは、2合パックというのがありまして、これくらいの小さなサイズですと観光客も気軽に買って帰ることができるのです。「一度食べてみてください」というお試しサイズですが、「おいしかったら通販もやりますよ」ということもお知らせして次につなげることができる。そういうことを考えられる農家の人がいるということです。

【大原委員】 今、久部会長の紹介をお聞きして感じたのですが、生駒のすぐそばにある近畿大学では、有名な養殖マグロのほかにも農業分野で様々なことが行われています。せっかく生駒市の近くにあるのだから、市からも積極的に働きかけて、もっと近大農学部と提携して新たな取組を行っていけばいいのではないかと思います。

【久部会長】 「一定面積を貸していただけるのであれば農地を借りたい」と農学部の教員も言っていました。

私と岸和田の山手の農家の方との交流が始まったというのを農学部の吉田先生が聞き、「久先生、岸和田で学生の実習用の農地、確保できますか」と連絡をいただきまして、今、借りる段取りが始まっているところです。岸和田は少し遠いけれど借りられる可能性があれば是非、ということでした。

大原委員がおっしゃるように、生駒ならば大学からすぐ行くことができ

ます。しかし、なぜ岸和田の農地を借りようとしているかといいますと、生駒で農地を貸してくださる農家がいらっしゃらないのです。借り手はあるにもかかわらず、貸してくれないから農地が荒れてしまうという点もあるでしょう。これは、農地でも空き店舗でも空き家でも同じです。

【中山委員】 高山の方にも荒れた農地がありますよね。なぜ貸していただくことができないのでしょうか。

【久部会長】 現状で困っていない、ということが挙げられると思います。他人に貸してややこしくなってしまうことを危惧しているということもあるかと思えます。

【事務局】 小作制度というのが昔はありましたので、小作で生かすと、権利自体が4割や半分とられるという思いが農家の方にあるので、貸すためにそれを解除しようと思うとまたお金が必要になってしまいます。そういった懸念もあるので、市が中に入って、遊休農地の貸し出しを行っています。

それと、軽トラックとか車が横づけできない場所の悪いところが最も放置されやすくなっています。また、そういう農地は借り手もありません。田んぼの場合ですと、200平米、300平米の小さい田んぼというのは収穫量の割に手間がかかってしまいますので、そのような場所が放置されてしまうようです。けれども、それを放置しておいても、先ほど部会長がおっしゃっていたように別に困ることがないので、草を刈ったりするだけで耕作はしない場合が多いようです。

【中山委員】 平群でしたら道の駅がありますよね。生駒にはそういった場所はないのでしょうか。

【事務局】 道の駅はありませんが、農業祭などで販売したりしています。道の駅というのは、農振地域等でなければ作れないという制約があり、また、それだけの農産物が生駒で収穫できるかどうかに関わってきます。ですので、地域の方が作った地域の野菜や果物を味わっていただくという取組としては、スーパーに地場産コーナーを設けていただくというような販売方法が最近は多いですね。生協や近商に置かれています。

【久部会長】 進捗度は行政がB、審議会委員の評価がCとなっています。いかがでしょうか。

【中山委員】 北田原の工業団地というのは、通勤の際などの交通の便は悪いのでしょうか。

【事務局】 車で来られるには便利ですし、白庭台駅ができましたので、交通の便が悪いということはないかと思えます。生駒の売りとしては、やはり東大阪、大阪府の工場や企業が手狭になったという理由などで生駒へやってきたというときに、比較的、交通の便がいいことが挙げられます。先ほど紹介しました学研都市の第1工区も、東大阪からこちらへ来られているという感じでは。

北田原周辺は少し道路状況が悪いので、国道のバイパスができればまた変わってくるかもしれません。

【大原委員】 第1工区といいますか、高山の方は徐々に企業に来ていただいているのですが、これも学研都市と同様、企業誘致するだけの土地を市が持っているのかということそうではありません。ある部分では結構な需要もありますしよくやっています。今の状態で本当に取り組んでいこうとされているのか少々疑問を感じます。

【久部会長】 例えば指標1は先ほどの農業と同じで、何を頑張ったから数値が向上したのか分析が必要になります。それは大原委員がおっしゃったように、ここは助成を受けていただいた企業の就業者数・雇業者数ですから、1つ大きな企業を誘致できれば急激に増加するでしょう。

【事務局】 久部会長がおっしゃったように、企業の誘致による増加であると思われれます。

【久部会長】 先ほどの大原委員のコメントの延長上ですけど、確かにこうやって努力の成果は出ているのですが、では、市域全体の企業立地という観点でいうと、進捗度Bとしてよい成果が出ているのかという疑問があります。ですから、審議会委員の皆さんの進捗度がCという評価になったのではないかと思います。

確かに頑張って様々な取組をされているので成果が出ていることは認めますが、市域全体の企業立地と考えたときに、Bというのは審議会とし

て疑問が残るということで、審議会評価は進捗度Cとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

⑧No.532 商工業

【久部会長】 進捗度は行政がB、委員の皆さんはCとなりましたが、審議会評価は進捗度Cとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

【久部会長】 生駒に限らず、商工業というのは、施策を打ってもすぐに何か成果が出るというのがなかなか難しい分野ではあります。この分野でも様々な努力をされているのは認めますけれども、成果という観点でいうとCなのではないかというのが審議会の意見です。

【大原委員】 商工業は、商工業者のために振興しているのか、市民のために商工業が何らかの振興を行うのか、ということがあると思います。市民のために買い物をしやすい商店を誘致してくれたら、市民は行政の取組を高く評価するのかそれとも、家の近場に商店ができたら高評価になるのか、行政からすると難しい部分ではないでしょうか。このことについて、中山委員のご意見を少しお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

【中山委員】 車が運転できないようになったら、コープ会員が利用できる週一の定期配達便が便利だと思います。また、私は利用してないのですが、スーパーのインターネット配達などもあるみたいです。最近、東北の宅配業者では、半分は今までどおりの宅配を行いつつも、半分が各住宅を回って食料品などを販売するシステムを導入したというのを聞いたことがあります。高齢化に伴い運転免許を返上した方も多いため、これからは買い物をどうするかというのが悩みになるでしょうし、商品を申し込んで持ってきてもらえるのが一番楽だと思います。

【大原委員】 ご意見ありがとうございました。しかし、そこまで行政がせねばならないのでしょうか。

【中山委員】 いや、それは行政の方では無理ではないでしょうか。

【久部会長】 今の話は商業者の取組であると思いますが、「そういったシステムを組

めば可能性が広がりますよ」という商業者への情報提供や、商業者のやる気を創出するのは行政の仕事であると思います。しかし、そういった新しいシステムの導入に意欲的な方は非常に少ないです。

これは1つのヒント・手がかりになると思うのですが、今まで個人や個人への補助ができないシステムであったので、茨木市は「茨木マイスターズ」といって、意欲に溢れる企業や商店を募集してグループを作り、そのグループを支援する施策を行っています。

お互い協働して事業を組み立てたり、色々なアイデアなんかも出てきていますし、まだマイスターズのメンバーになっていない人に「こっちに来たらおもしろいことをみんなで考えられるよ」というような声かけなんかもしてくださっていて、少しずつですが輪が広がってはきています。市内の企業活動の活発化について、全体に手を施していくとなかなか効果も出ないし難しいですからね。

【大原委員】 進捗度はCでわかりありませんが、プレミアム商品券や、また、久部会長がおっしゃるように元気のある商店や事業所に設備投資するなど、様々なご理解いただいているというか、取り組んでいただいているなということは最近感じています。

⑨No.541 観光・交流

【久部会長】 進捗度は行政がB、審議会委員も全員Bということですので、審議会としての評価は進捗度Bでよろしいでしょうか。

(異議なし)

【久部会長】 企業立地や商工業は、頑張って取り組めばそれなりに効果が出る余地があるのですが、生駒市の観光という話になってくると、元々の観光資源が弱いのであまり余地がありません。ですが、資源が弱いにも関わらず、そこそこ頑張っているなということで進捗度Bと判断しました。企業立地・商工業は、まだまだポテンシャルがあるにもかかわらず、そこを生かしきれていないということで評価が厳しいということになるのかなとは思っています。

今年度事業ですけれども、広報で取り組んでいる生駒を紹介するビデオづ

くりもこの分野に掲載すべき施策であるのではないかと感じます。

【事務局】 部会長が今おっしゃった、映画館で上映する「シネアド」というプロモーションビデオや、それから、PRサイト作成などは、観光の分野になっております。

【久部会長】 昨年度の評価ですが、そういう新たな試みも出てきていますし、経済振興だけではなくて広報の取組なども連動させて、もっと他部署との連携を行って取り組んでいくとより効果が出るのではないかと思います。

【事務局】 今までの既存の観光スポット以外に、市民の方が「ここはすごくいいところだよ」という新しいスポットの発見と発信の両方を兼ね備えた取り組みをやっていっております。

【久部会長】 本日審議を行った全分野について押しなべて見ますと、うまく市民の力をお借りしながら取り組んでいる施策と、市役所が主に頑張っている施策というのが見えてきたかなと思います。

例えば自然的資源の分野では、市民ボランティアの方の手も借りながら、緑の保全等ができるようになってきましたし、観光・交流の中ではPRビデオの作成など、市民の力をお借りしながら、新たな展開となる可能性を探っていこうという取組ですね。学研都市の取組も、より一層市民の知恵や力を借りながら取り組んでいく施策になれば、もっと効果も出てくるのではないのでしょうか。

もっともっと市民の力や知恵も借りながら施策をやっていただくと、少なくとも関わってくださった市民には伝わりますし、その方のお友達にも声がかかるしという関係になってきて、市民がそれぞれ一緒に頑張っていこうということになると思います。

【大原委員】 先ほど部会長が「他部署との連携」とおっしゃいましたが、例えば、ふるさと納税の取組を行っていますが、当分野で行われているような特産品の開発やPRも必要となるでしょう。経済振興課だけでなく、課税課や広報広聴課も何らかの取組を行ったほうがよいのではないかなと思います。ふるさと納税のカタログは、生駒の名物や特産品が分かるパンフレットとしても見るできるので、経済振興課も頑張ってお取組を行っているとは思っています。

【久部会長】 生駒は、何か小さな取り組みでおもしろい商品を作っているというのではないのでしょうか。何が言いたいかという、そういう小さな取り組みも、もっともっと市民の方に知ってもらいたいと思います。そういう商品開発や、そんなおもしろい商品があるのであれば、より一層PRを行う必要があるのではないのでしょうか。

観光・交流の分野でもお話しましたが、富田林の「きらめきファクトリー」という新しい観光案内所では、富田林産の様々な商品を置いてくださっているコーナーがあって、そうすると観光客の目にもとまって、やはり売り上げも上がってきているそうです。だから、一軒一軒が自分で商品をPRするのは規模的にもなかなかできませんが、観光案内所にお土産も兼ねて置かれることによって認知度が上昇する効果も出ています。

【中山委員】 ふろーらむには行ったことないのですが、確か果物を植えていらっしゃるのですよね。

【事務局】 はい、リンゴを作っています。

【中山委員】 栽培はしているけれど、その果物を使ったジャムなどは作ってないのでしょうか。

【事務局】 そうですね、そこまで進んではいません。

【中山委員】 私個人の話なのですが、果物の木を庭に植えています。実が余ってしまったときは、日持ちもいいのでジャムにしてみました。自分で作るのでも添加物も入れませんし、砂糖の量も市販のものより少ない量で作ることができます。ふろーらむにも果物の木があるのなら、ジャムなどを作って販売したらどうだろう、と思いました。

【大原委員】 今、創業支援というものが行われていますが、趣味として行なっているときはいいけれど、それをお金で売ろうと思ったら、販売するための免許の獲得や食品衛生、また、原産地はどこで何が入っているのか、という証明を出さなければならないので大変かもしれませんね。

【中山委員】 そうですね、販売するのであれば必ず記入しないといけませんよね。

【大原委員】 農業でも同様ですが、「それほど面倒なのであれば、やめておこう」という人が多いのです。

【久部会長】 本業として生業でやっている人、それから、完全に自分の趣味でやって

いる人。そして今、その両者の中間が生まれ始めているのです。実際に、元々サラリーマンだった人が退職を契機に趣味が高じてジャム屋になった、というケースもあります。

先ほど、「小さな取組で何か作っている人がいませんか」と質問いたしましたが、趣味が高じて様々なおもしろいものを商品開発している人が増えてきているからなのです。必要となる免許などのノウハウ提供で後押しを行ったり、そのような人々や商品をもっと市が様々なところにPRしたりするとよいかもかもしれませんね。

【事務局】 先生がおっしゃっていただいたような、趣味を事業にしたい方などの起業を支援するというのも商工業の分野において取り組んでいます。例えば、子育てが一段落した女性が趣味でやっているものを評判がいいので売ってみようということで起業されるなど、様々なケースがあります。

【久部会長】 「いこママまるしえ」で出店されている方の中にも、子育ては一段落していないものの、こういった取組で何らかの社会貢献を行うという人たちもあらわれてきています。その中からビジネス的な芽が出てきたらいいなと私は期待しています。

【大原委員】 先ほどの観光・交流分野についてですが、経済振興課の取組しか載っていませんでしたが、生涯学習課でもハイキングやサイクリングマップ作成が行われていますので、「これも観光に該当するのではないだろうか」というように物事の見方を変えなければならぬと思います。

【久部会長】 そこが、ユニークさにもつながってくると思います。自分の担当しているところを真面目にやるだけではなく、これが交流になるんだ、これも観光になるんだというような見方をしてほしいということです。

それと、今まではプロかアマかという仕分けをしていましたが、セミプロという人たちが出始めています。そういう人たちの位置づけをどうするかというのがこれからの時代の中ではとても重要になるでしょう。

それでは、第2回第一部会を終了します。

—— 了 ——